

2018年度 公益財団法人京都YMCA事業計画

日本YMCAのリブランディング策定にともない日本YMCA基本原則の使命実現のために策定されたブランドコンセプトに基づき次の10年を見据え、その土台作りとして中期計画を策定した。この年度をその初年度として位置づける。事業展開としては引き続き人材育成をその基本活動として、京都YMCAの使命実現に向けて、「ボランティア社会の構築」、「青少年の育成」、「福祉社会の構築」「多文化共生社会の成熟」「生涯学習の推進」の5つの分野をベースに新たに子育て支援の事業を開始し、130周年に向けて運動・事業を展開する。

- 1、各分野の事業・活動について府民との協働を重視しその推進を図る。
特にユースの育成をはじめとした「人」の育成に重点を置く。
- 2、ブランドコンセプトに基づき新たな地域社会の課題への取り組み新規事業・プログラムを検討し実施する。
- 3、運動および事業推進基盤の整備を進め、公益事業を担う会員やボランティアを育成し、地域社会に貢献する。
- 4、子育て支援事業としての保育所を設置し、地域の子どもと子育て世帯の支援を行う。

I. ウェルネスの考え方の下に子どもから大人までの健全な心身の発達を促進するための自然・社会体験活動及びセミナー等開催事業

京都YMCAの自然体験や、スポーツ活動、文化活動を通して、プログラムに参加する一人ひとりの全人的な成長を促し、健やかな心と体を育みながらたくましく成長をはかる活動を展開する。

プログラムを通していのちを守ることの大切さを学ぶとともに、生涯にわたって生き生きとした人生を歩み、社会の一員として貢献できるように指導する。

2018年度事業計画

- ① YMCAのブランド再構築に伴い各事業の見直しを行い、地域のニーズに応えるプログラムとして事業の再編に着手する。
- ② ユーススポーツ事業において水上安全キャンペーンを行いYMCAウォーターセーフティハンドブックを近隣の小学校に配布する
- ③ 病児及び発達障がい児の支援プログラムを充実させる
- ④ 共働き家庭やひとり親家庭の子育て支援として、保護者が帰宅するまでの時間を安全に過ごせる居場所としてのアフタースクールの拡大と充実を図る。
- ⑤ 高齢者が元気で健康的な生活を送ることができることを目指したプログラムの拡大を図る。

主な事業の参加目標人数

野外自然体験活動事業

日常プログラム

日常野外活動	年間登録者	230人
発達障がい児支援プログラム	年間登録者	40人

リトリートセンター利用者	年間利用延人数	3000人
特別プログラム		
夏期キャンプ	参加者延人数	440人
スキープログラム	参加者延人数	520人
冬期・春季プログラム	参加者延人数	110人
成人ウエルネス事業	年間登録者	1600人
高齢者健康プログラム	年間参加者	1600人
ユーススポーツ事業	年間登録者	
スイミング	前期553人、後期	625人
ユーススポーツ	前期203人、後期	229人
集中プログラム		
キッズダンス	年間登録者	10人
体操が好きになる教室 夏・冬・春期計		165人
集中水泳	参加者延人数	371人
子育て支援プログラム アフタースクール	年間登録者	25人
ユースボランティアの育成		
年間活動ユースボランティアリーダー数	年間登録者	60人

II. 子どもから大人までの幅広い世代のボランティアによる地域社会及び国際社会への貢献事業、並びにボランティアの育成事業

子どもから大人まで全ての人がボランティアを通して地域社会ならびに国際社会に貢献することができるように、ボランティアを育成し、ボランティアの手による地域社会および国際社会への貢献事業を進める。

2018年度事業計画

- ① YMC Aブランドコンセプトに基づいてプログラムの見直しを進める
- ② 地域課題に取り組む新たなプログラムの開発に着手する。
- ③ グローバルな視野を持ちリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
- ④ ボランティアセミナーや啓発プログラムを通じてボランティアの拡大を行う。
- ⑤ 公益活動のための寄附金拡大を図る。

各計画の目標

- 1、身心に障がいのある子供たちのための「インターナショナルチャリティーラン」の見直しを進めより多くの府民の理解と協賛を得られるように内容を見直す。
- 2、YMC A三条保育園と協働して、子育て支援のプログラムを企画する。(年1回)
- 3、地球市民養成セミナーに青年を派遣 (1名)
グローバルコミュニティスタディプログラムに青年を派遣 (2名)
ピースセミナーに青年を派遣 (1名)
国際リーダーの研修を実施 (年間1回)
国際協力チャリティーイベントを実施 (2月開催 来場者150人)
- 4、YMC A・YWC A合同企画プログラム (11月実施 参加者40名)

国際理解セミナーを年間2回以上開催 (参加者30名)
 国際協力街頭募金を実施 (10月実施 参加者300名)
 第6回 The Y cup 京都ミニバスケットボール大会を実施
 (3月実施 参加男女16チーム来場者360人)

5、奉仕活動のための寄付金 (目標 200万円)
 国際協力のための寄付金 (目標 270万円)
 障がい児支援のための寄付金 (目標 150万円)
 経済的理由で参加が困難な子どもがプログラムに参加するための寄付金
 (目標 100万円)
 YMCAの運営を支える寄付金 (目標 600万円)

Ⅲ. 児童福祉施設としての保育所の運営を通じて、乳幼児の健全な育成並びに地域の子育て支援を行う事業

ウェルネスの考え方を基本として当財団で取り組んでいる「青少年育成やボランティア活動支援・促進事業」と緊密な連携を図りながら、乳幼児の成長過程において必要な情緒的、身体的、知的体験教育を保育事業を通じて統合的に推進するとともに、共に支え合う地域社会の実現に向けた子育てボランティアの育成なども含む広範な子育て支援事業を展開し、乳幼児期の子どもたちの健全な成長及び発達を促すことを目的とする。

2018年度事業計画

- ① 保育事業を開始し、運営を安定させる。
- ② 地域ニーズに合った独自性のある保育園として内容の充実を図る
- ③ 全国のYMCA保育園と連携し、YMCAのブランドコンセプトに沿った保育を行う

1、保育園を安定的に運営するために各種システムの確立する。

- ・保育所運営システムの構築。(職員組織 会計システム 会議システム など)
- ・理事会の下の常置委員会として保育所運営について子育て支援の専門家の入った委員会を作り運営を行う。 年5回程度開催

2、京都YMCAの様々な施設及びプログラム、人材等の資源を用いた保育を行う。

- ・水泳プログラム、体操プログラム、キャンププログラム、自然体験プログラム
異文化理解プログラム、絵本読み聞かせプログラムなどの実施。
- ・発達障がいのある乳幼児の受け入れ。
- ・日本在住外国人の乳幼児の受け入れ。
- ・ボランティアを巻き込んだ子育て支援事業を企画し実施。

3、全国YMCAチャイルドケア事業との協働を図り保育職員にブランドコンセプトに基づいたYMCA保育の理解を進める。

- ・保育職員のYMCA理解(理念、ブランドコンセプト等)を進めるための研修の実施。